

平成 27 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」
成果報告書

団体名（受託自治体名）

千葉県教育委員会

I 概要

1 事業の概要

千葉県では、当事業を柏市・市原市に再委託し、早期相談支援体制の構築について研究を行った。

県では、次の取組を実施した。

- ①「早期相談支援 Q & A 検討チーム」による支援
- ②「平成 28 年度版 早期相談支援リーフレット」の作成・配付
（平成 26 年度に作成した平成 27 年度版を修正）
- ③「特別支援教育実践発表会」の実施

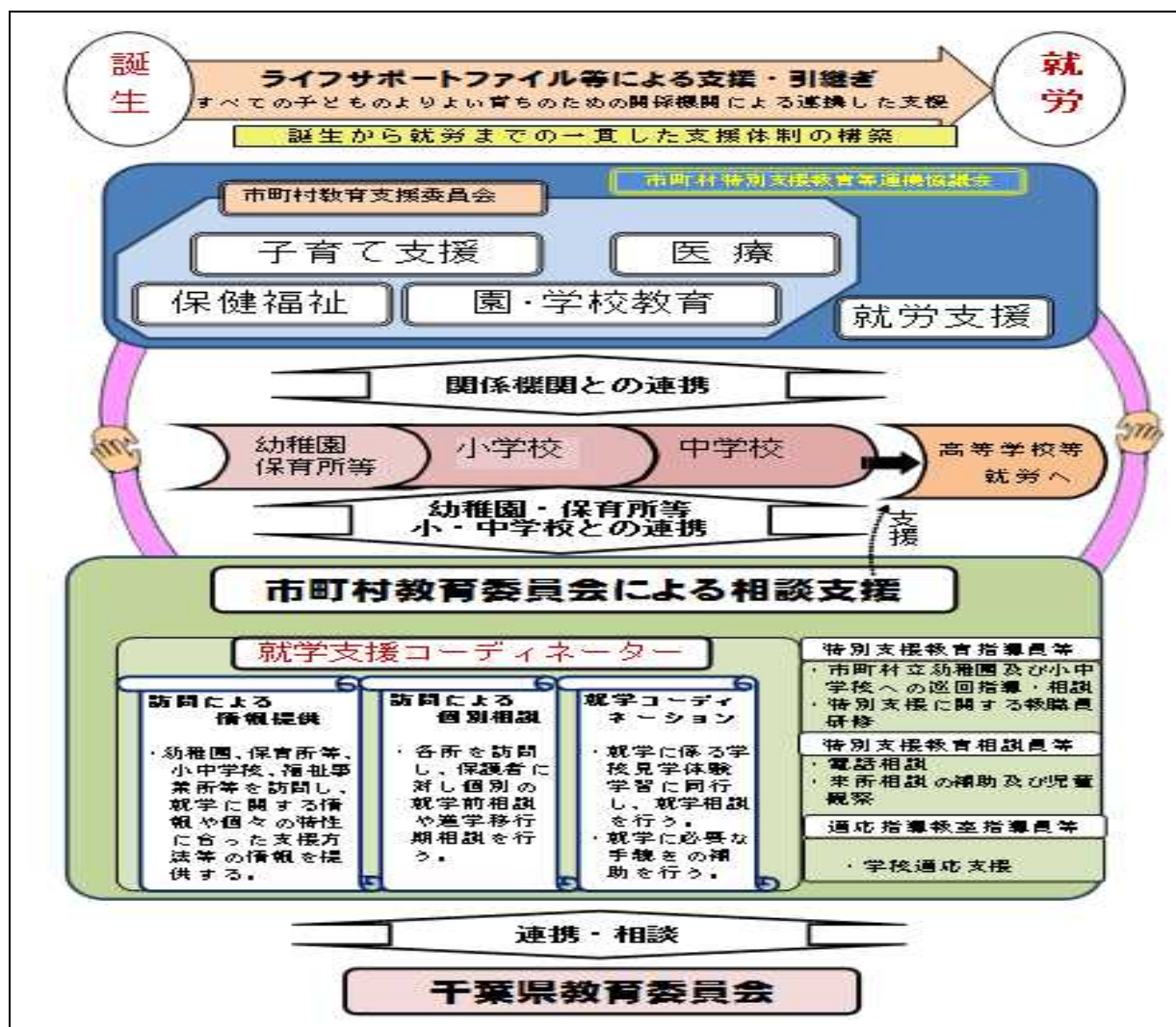
柏市では、次の取組を実施した。

- ①早期からの教育相談体制の拡大
- ②支援体制の構築

また、市原市では、次の取組を実施した。

- ①就学支援コーディネーターの配置
- ②いちほら相談支援ファイル「スクラム」「サポート」・リーフレット「市原の特別支援教育」の配付と活用
- ③インクルーシブ教育システム構築に向けた教職員の指導力の向上

<事業の概念図>



2 事業の成果

《県の取組》

- ①「早期相談支援Q & A検討チーム」について
 - ・柏市・市原市の取組について会議で取り上げ、意見交換をすることで、研究を推進する上での参考となった。
- ②「特別支援教育実践発表会」について
 - ・県内の教育関係者約250名の参加を得て開催した。早期相談支援等の必要性や取組について広く情報提供をすることができた。
- ③「平成28年度版 早期相談支援リーフレット」について
 - ・市町村を通じて、3歳児の保護者全員を対象として配付の予定である。保護者支援の充実を目指していく。

《柏市の取組》

- ①早期からの教育相談体制の拡大について
 - ・教育相談のパンフレットを配付し、周知を図ったため、以前より幼児教育に関する相談が増えた。

②支援体制の構築

- ・関係各課に事業の概要説明を行ったことにより、お互いの業務内容の理解と調整が図られ、連携体制ができた。

《市原市の取組》

①就学支援コーディネーターの配置

- ・就学についての相談を希望する保護者に早期につながることができ、正確な情報を提供することができた。

②いちほら相談支援ファイル「スクラム」「サポート」・リーフレット「市原の特別支援教育」の配付と活用

- ・「スクラム」及び「市原の特別支援教育」を3歳児健康診査・小学校就学時健康診断・中学校入学説明会で全家庭に約7,000部配付した。

③インクルーシブ教育システム構築に向けた教職員の指導力の向上

- ・特別支援教育に関する最新の研究や事例検討等を取り入れた研修を行った。それによって、アセスメント及び支援方法に関する知識・技能の向上を図ることができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

本事業の取組から、保護者のポジティブな子育てを支援し、保育所（園）・幼稚園・学校等の保育士・教職員の資質や使命感の向上も図られるようになってきた。今年度末で委託事業終了を迎えるに当たって、早期支援を更に推進していくため、乳幼児・児童生徒に関わる全ての大人の気付きを高め、それが早期支援へつながるような仕組みを作り、その運営の充実に努めていくことが重要である。

【課題】

- (1) 家庭から幼稚園・保育所、幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校への「移行期支援」を充実させる。

【取組】

- ア 私立幼稚園に対し就学相談活動を積極的に行う。
- イ 中学校移行期に当たる小学校6年生への個別の進学相談を行う。
- ウ 中学校入学説明会において市内相談支援体制の説明及び個別相談を行う。
- エ 中学校入学後の支援体制の確認及び情報収集を行い、支援体制の見直しを行う。
- オ 高等学校等入学候補者の支援に関する情報提供の在り方について研究する。

【課題】

- (2) 「ライフサポートファイル等」を子育て・教育の有効なツールとする。

【取組】

- ア 配付対象が希望する保護者であるため、活用の広がりが十分ではないという課題がある。現在のような希望者への配付では、ライフサポートファイル等を手にする保護者には、ある種の「覚悟」が必要であり、精神的な負担も考えられる。その負担を和らげる配付方法を検討する。
- イ 「ライフサポートファイル等」について、各関係機関の協力の下、形式や記載内容等がより使いやすいものになるよう検討を行う。